

事業者の取り組み

TOTO株式会社 小倉北区

実施内容

活動名称 TOTO水環境基金助成先団体の活動

2020年の取り組み内容

目的・趣旨 地域の水とくらしの関係を見直し、再生することを目指した水環境や生物多様性の保全・再生につながる実践活動を支援します。助成金による経済的支援だけでなく、TOTOグループ社員の活動参加や情報交換などを通して、年々活動の輪が広がっています。

活動内容 これまで40都道府県及び15カ国で活動する、のべ269団体に支援してきました。北九州市内の助成先団体「笹尾川水辺の楽校運営協議会」が実施している環境整備や清掃活動等に、TOTOグループ社員も地域住民として参加しました。



皿倉登山鉄道株式会社(皿倉山) 八幡東区

実施内容

活動名称 さくら森のがっこう、皿倉観察会

2020年の取り組み内容

目的・趣旨 都会の子どもたちは、自然に触れる機会が少なく、自然の中で遊ぶ楽しさを知らない。自然に触れあい、遊びを通じて学ぶ場を提供したいと考え始めたのが「さくら森のがっこう」である。

成果 帆柱自然公園でたくさんの仲間とともに、こけ玉作り、天体観測などさまざまな遊びを通して、「自然と森」を直に体験し、自身の好奇心、感性を育んだ。



グリーンパーク活性化共同事業体 八幡西区

実施内容

活動名称 北九州市「100万本植樹プロジェクト」への協力

2020年の取り組み内容

目的・趣旨 「市の施策である『美しい緑の環境首都』への貢献」の一環として、また自然環境保全の啓蒙活動の取り組みとして、北九州市響灘緑地/グリーンパークでは、春と秋のイベント時に来園者への花苗や種のプレゼントを実施しております。

活動内容 2020年度はイベント企画として、「秋のバラフェア」期間中(10/17~11/15)の土曜日曜にはバラの苗を各日先着400苗、来園者にプレゼント致しました。



成果 「秋のバラフェア」では計4000株のバラの苗が来園者に配付されました。

ひびき灘開発株式会社 若松区

実施内容

活動名称 自然環境保全活動

平成30年度の取り組み内容

目的・趣旨 自然環境保全活動を通じて地域社会に貢献する。

活動内容 ・緑の回廊 植樹会に毎年参加。
・エコライフステージに毎年参加。
(※2018年は台風のため中止)
・北九州市響灘ビオトープの指定管理者。



光和精鉱株式会社 戸畑区

実施内容

活動名称 地元戸畑区の公園清掃と北九州市まち美化清掃への参加

2020年の取り組み内容

目的・趣旨 当社は廃棄物の適正処理を通じて、環境保全と循環型社会の構築に貢献することを使命としている。当社では、この考え方を具体的に実践する活動として地域の清掃活動を行っている。(毎月第4土曜日に地元戸畑区の大橋公園と戸畑駅周辺で実施)また、自治体や他団体が主催する環境保全に関する各種催しへの協力・支援を行うことで地域環境保全に寄与している。(北九州市まち美化清掃、市民いっせいまち美化の日への参加)こうしたボランティア活動を通じて、社員一人ひとりが地域社会に直接触れ合うことの重要性を知った。地域社会に直接触れ合うことでより一層環境保全に対する意識を高めていきたい。



緑の回廊事業

(どんぐり苗の育苗)に協力しています



■ イオン若松ショッピングセンター



■ 株式会社安川電機

■ 日本コークス工業株式会社 北九州事業所

■ 日本通運株式会社 北九州支店エコタウン営業所

■ イオンモール八幡東

4 市各部署の取り組み

戦略基本目標1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

4-1 里地里山の持続的な利用～小倉南区発「日本のふるさと」推進プロジェクトの推進支援～

小倉南区役所 コミュニティ支援課
環境局 環境監視課

目的・趣旨

小倉南区には、数多くの農村地域(里地・里山)があるが、若者の流出や高齢化などにより、地区の活力が低下し、農地や山林が荒れ「日本のふるさと」とも言える美しい農村風景が失われようとしている。
一方、都市住民の中には、自然環境のなかでの生活やスローライフを希望するなど、心の豊かさを求める場所として、農山村地域を見直す動きがある。
そこで、都市と農村の交流の中から里地里山をはじめとした農山村地域の豊かな自然や文化の保全を目指すもので、具体的には、平成16年9月より中谷地区を対象に、地区住民と小倉南区役所が協働して、都市住民も交えたワークショップを始めた。

内容

中谷地区まちづくり構想の策定

ワークショップの開催を通じて、地区における、まちづくり資源の発掘や再認識をし、それらを活かした目指すべき暮らしのイメージを共有し、都市住民との関わりを含めた、中谷地区まちづくり構想を、平成18年春に策定した。

中谷地区まちづくり構想

中谷地区は大きく3つの地域に分かれることから、本構想は、地域毎のプロジェクト、そして、共通課題となる連携プロジェクトから成り立っている。

地域プロジェクト例

(頂吉・道原地域)山をまもる、農山村交流体験拠点づくり
(春吉・山本地域)おいしいものづくり、眼鏡橋のシンボル化
(高津尾・加用地域)豊かな自然を増やす など

連携プロジェクト例

【里地里山関係】●美しい地域づくり●川とともに暮らす
●特産品開発
【その他】●バスの利用向上●高齢者のいきいき健康づくりほか

構想に基づき、地区住民と小倉南区役所・環境局が協働して次のような取り組みを行っている。

中谷地区まちづくり協議会の取り組み

中谷ウォーキング in みなみ

中谷地区を実際に歩くことで、その魅力を体験してもらい、都市住民との交流を図っている。



竹炭づくり

伐採した竹から竹炭を作製するための竹炭窯を設置。竹炭による川の浄化活動に活用している。



特産品開発

漬物をつくる伝統技術の伝承と地産地消を目的に「漬物コンクールin中谷」を実施し、加えて地域外の人との交流も進めている。



荒廃竹林伐採～植林活動

荒廃した竹林を伐採し、保水力の高い広葉樹の苗木の植林活動を実施している



* その他、「紫川清掃活動」等を実施している。

今後の展開

- 引き続き都市と農村の交流を図るため、エコツアー等で地元とのふれあい事業を実施。
- 過去のエコツアー参加者に対し、地元で行われる他の事業の開催案内や情報提供を図り、多くの人の参加を促す。

4-2 長野緑地「市民参加による農業体験教室」

建設局 公園管理課

実施内容

実施期間

平成15年度 — 継続

2020年の取り組み内容

長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、交流体験公園」を目指している。当事業では平成15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、NPO及び地元住民を中心に、市民が農業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行っている。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山としての農村景観の維持を図る。

成果

買収済用地の維持管理経費の削減がなされるとともに、令和元年度は延べ1,944人の市民が参加している。※長野緑地整備完了後も同趣旨の事業の継続を検討しており、最終目標年度は未定。



今後の展開

「学習用田圃」及び公園計画地内の買収済用地の一部(計約0.8ha)及びその周辺において前年度に引き続き下記の活動を行う。

- ①野菜づくり教室
- ②農業体験(畑)
- ③農業体験(水田)
- ④花畑づくり・花壇づくり

4-3 学習プログラムの取り組み

建設局 公園管理課

実施内容

実施期間

平成17年度 — 継続

2020年の取り組み内容

本事業では、テレビや本、インターネットなどの「メディアから得た知識」ではなく、児童自身の「生きものとの出会いや触れ合いによる体験活動」を通して、生命の大切さや自分をとりまく環境について考え、理解を深めることを目的とし、「到津の森公園」が、市内及び市外の小学校に学習プログラムを提供している。令和元年度は、「遠足学習プログラム」「長期学習プログラム」「先生向け研修会」を実施した。

成果

平成17年度に事業開始以来、学校関係者及び参加児童からも大変好評を得ている。本プログラムは指定管理業務の一部として実施し、令和元年度は、50校4,189人が参加した。

今後の展開

引き続きプログラムを提供する。



4-4 中山間地域農業支援事業 産業経済局 農林課

実施内容

実施期間

平成12年度～令和6年度

取り組み内容

概要 中山間地域にある農地を保全し、良好な農村空間を維持するため、中山間地域の集落内での話し合いを基礎に定められた集落協定に基づき、農地を管理する集落(農業者)に対して交付金を支払う。

成果 水田等農地の自然環境や豊かな景観の維持、水質浄化、洪水防止、水資源のかん養など多方面にわたる環境保全の役割に着目し、優良農地の確保、農村原風景の保全に努めるとともに、次世代への継承を図った。

課題 中山間地域では、過疎化、高齢化が進み、農地の維持が困難になっている。今後、この傾向は加速すると考えられ、農村環境だけでなく農村そのものの存続が危惧される。



今後の展開

水田等農地の自然環境や豊かな景観の維持、水質浄化、洪水防止、水資源のかん養など多方面にわたる環境保全に取り組む。

◎対象農地:55.2ha

4-6 多面的機能支援事業(旧:農地・水保全管理事業) 産業経済局 農林課

実施内容

実施期間

平成27年度～令和6年度

取り組み内容

概要 農村地域における都市化や混住化の進行、また高齢化等に伴う集落機能の低下のほか、環境・景観等に対する市民意識の高まりを受け、地域が主体となって取り組む農地・農業用施設を守る共同活動に対して支援を行う。

成果 この施策では、高齢化や混住化の進行により弱まってしまった地域の「力」を、農業者と都市住民とが一体となって育成し、景観や環境に対する意識の高まりも加味しながら、共通の資源である農業の持つ多面的機能を守っている。

課題 農業の持つ多面的機能を守っていくためには、農業者だけでなく地域住民や企業、NPO等の多様な主体も参加し、共同活動を進めていくことが重要である。

今後の展開

多面的機能支援事業の取り組みを受け、自主的かつ自立した地域の活動が継続するよう、活動組織の安定的な枠組みを構築していく。



4-5 地産地消の推進 産業経済局 農林水産部

実施内容

実施期間

平成19年度 — 継続

取り組み内容

概要 消費者の「食」に対する関心が高まる中、「新鮮」で「安全・安心」な農林水産物を求める声が高まっている。そこで、生産者、消費者、飲食店、販売店、加工・製造者等が参加する地産地消サポーターへの情報発信や食のイベント等を通じ地産地消を推進し地元産の食を通じた地域の活性化を目指すもの。

成果 地産地消を推進することによって、食に関わる人々の顔が見える関係づくりを進めることができた。また、イベント等を通じ多くの人に北九州産の農林水産物を知ってもらい、地産地消を働きかけることができた。

課題 消費者に対する北九州産の農林水産物の認知度向上。ブランド化の推進。

今後の展開

産地見学会等の活動による農林水産業への理解促進、サポーター同士の相互交流や連携を進めるとともに、ブランド製品のPRを図り、地産地消をいっそう推進していく。



豊前海一粒かきのかき焼き祭り



北九州市農林水産まつり

※令和2年は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

戦略基本目標2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

4-7 環境学習事業の推進 環境局 環境学習課

実施内容

実施期間

平成23年度～継続

2020年の取り組み内容

概要 環境学習の総合拠点である環境ミュージアムにおいて、ガイドの解説や環境学習サポーターによるエコ工作・環境実験など、様々なプログラムを実施。また、環境学習コンシェルジュや、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した様々な媒体での情報発信等を行っている。さらに、多様な人々が、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域課題等に取り組むESD活動の全体的な普及を目指すとともに、エコライフステージや環境首都検定をはじめとする施策を実施する。

成果 ・環境学習コンシェルジュを中心とした様々な媒体での情報発信。
・環境ミュージアムにおける環境学習の推進。
・環境教育副読本や環境教育ワークブック「みどりのノート」を作成・配布。
・北九州ESD協議会を中心とした、ESDの普及・促進。
・北九州エコライフステージの実施。
・北九州市環境首都検定の実施。
・環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した環境施策の広報。

今後の展開

引き続き、環境学習の総合拠点である環境ミュージアムを中心として、市民に対し、効果的な学びの場を提供するとともに、ESDの普及や環境首都検定をはじめとする施策を実施する。



環境ミュージアム 企画展



環境マスコットキャラクター「ていたん」



エコライフステージ



環境首都検定